

神宮寺嶽

地元では通称「だけやま」と呼ばれ、神宮寺のシンボルとなっています。

標高は277メートル、円すい形の山で、一帯は見事な杉で覆われ、中腹から山頂までは「風致保安林」として愛されています。



少年野球育成の地

明治33年、南榑岡クラブで投手・打者として活躍した神宮寺出身の富樫武治が神宮寺尋常高等小学校に準訓導として就任。

学校教育の一環として生徒に指導し、野球選手に任命状を与えたのが、神岡の野球の始まりです。

以来、神岡は少年野球育成の地として広くその名を知られるようになり、野球を愛する情熱は、今でも町の人々に受け継がれています。

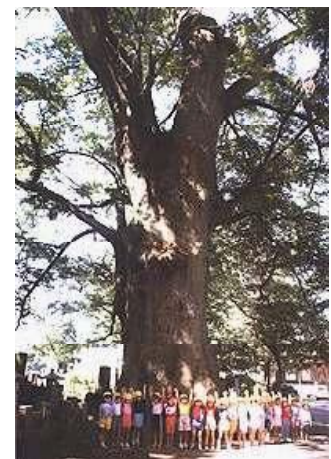
また、昭和54年からは秋田魁新報社と共催で「全県500歳野球大会」を開催、毎年全県から約4,000人以上の往年の名選手が一堂に集い、神岡野球場を主会場に熱戦が繰り広げられます。



宝蔵寺

宝蔵寺は、加賀（現石川県）の名族、富樫氏の支流が地元創建したもので、神宮寺への移住に伴い文和3年（1354）に加賀から移された曹洞宗のお寺です。

境内にそびえる「大けやき」は樹齢約950年と言われ、樹高約38m、幹回り約11mという名木で、太さ・樹勢とも県内屈指の大きさを誇っています。



八幡神社



大同2年（807）に坂上田村麻呂が建立したと伝えられる古い歴史を持つ神社で、現社本殿は享和3年（1803）、拝殿は明和2年（1765）に建立されました。

勝負や戦、火に関することにご神益があるとされ、江戸時代の幕府巡見使の立ち寄り名社で、戊辰戦争では奥羽鎮撫副総督沢為量が戦勝祈願をしました。鎌倉期から室町期までの棟札3枚は市の指定文化財。祭典は毎年9月15日。

ニタ子沢農村公園

ニタ子沢農村公園は、小高い丘の上であり昔から「あぶら公園」という名称で地域住民の憩いの場として親しまれてきた公園です。

平成7年に農村総合整備モデル事業により親水施設や修景施設を整備し、さらにグレードアップをはかりました。

約3,000㎡の芝生広場からは神岡地域が一望でき、秋にはなべっこをする家族連れに好評です。



大浦沼



大浦沼は、玉川と雄物川の残存湖で面積は約19ha、周囲約4kmの湖沼です。

沼の縁は深いヨシやガマが生い茂っており、水面もハス、ヒシ、コウホネなどの水草に覆われています。

水中にはへらぶな、鯉はもちろんですが有名なのは雷魚で大きいものになると1メートル近いものもいるようです。

夏になると近隣はもちろん遠く関東方面からも雷魚を釣りにやってきます。

また、水鳥の羽を休める中継点でもあり、冬が近くなるとハクチョウやマガンなどの渡り鳥が飛来し羽を休める光景が見られます。

湯の台自然環境保全地域



県の野生動物保護地区に指定され、サギソウやキンコウカ等の多くの植物や、日本で最小のハッチョウトンボが生息します。

ハッチョウトンボ



サギソウ



飴売り節の里

高価だったあめも江戸時代になると庶民にも手の届くものとなり、かねをたたきながらあめを売り歩く商人が各地に見られるようになりました。

飴売り節は客寄せやサービスに歌ったもので、秋田では各地区を巡り歩き、街角でよく歌われたと言われています。

